

第77回定期全国大会開く 伊東市 8月21日~22日

第七十七回定期全国大会が伊東市で、八月二十一日、二十二日にかけて開催されました。今年の大会は、全体で三十四名の代議員の発言があり、ほとんどR不採用問題の早期解決に向けた地方の闘いの報告や意見、組織拡大行動の職場での実践報告などありました。



国鉄新潟

NO. 671
発行
09・9月1日
国鉄労働組合
新潟地方本部
発行責任者
守橋久仁雄
編集責任者
教宣部

高橋委員長 あいさつ

勤労者・国民を取り巻く情勢は、貧困と格差が進行し自殺者が12年連続3万人台となるなど国民生活を厳しい実態に追い込んでいます。人権と暮らしと平和と民主主義を守る闘いが求められています。



一連の労働法制的規制緩和により厳しい労働環境になっている。人間らしく働き、暮らすことのできる社会をつくらなければならない。そのために労働組合としての「責任」と「使命」を再確認しあいたい。

09春闘は国民的諸課題とJR不採用問題の政治的解決と結合して闘ってきた。今春闘は定期昇給さえ厳しい中、産業によって賃下げを受け入れざるをえない結果となったところもあった。国労は引き続き、職場・地域・産別の運動とともに、JR不採用問題の政治的解決に向けて支援組織、県平和運動センターなどと連携を強め、春闘の再構築や総合交通政策の実現に向けて、連合・交運労協と引き続き関係強化を進めていく。

JR不採用問題は、今年で23年目になる。闘争団・家族の苦悩を消し去ることは無論のこと過ぎ去った時間を取り戻すことはできない。22年を経て54名の仲間が他界された。2・16集会での与党・公明党をはじめ、すべての政党代表者が1047名問題を政局から切り離して、与・野党の枠を超えて人権問題と人道的立場から早期解決を力説された。今日までの到達点は、人権・人道問題として解決すべしと、強調された各党の代表の発言に言い尽くされるもの。JR不採用問題の政治的解決に向けて、全組合員が一糸乱れぬ決意を固めあう。働く者の雇用と権利、平和と民主主義、安全・安心できる暮らしを保障し、希望を持って働ける政治への転換をめざし総選挙闘争勝利のための総決起の場とする。闘争団員・家族と心をひとつに重ね合わせ、全国の支援の仲間とともに、一致結束して解決の出口に向けた政治環境と解決条件を作り出すために、すべての機関・役員・家族が一丸となって、持てる力を挙げて奮闘することを訴える。

大会は10時に開会し開会あいさつで田中副委員長は、「非正規労働者の増大、雇用不安など安心して暮らせない状況の中闘われている。働く権利を奪い、安心して暮らせない。総選挙は憲法や平和を守る選挙闘争にしていく。今大会は、その闘いに勝利するための決起する場にしていく。JR不採用事件解決を含めて重要な選挙になる。」

安全・安定輸送の確立や公平・公正を守る労働関係の確立、労働条件改善の闘いから組織拡大へつなげていく。自らやりきる決意、一日も早い解決を。今大会総団結の場にしていきたい。あいさつしました。



全体の総団結で JR不採用問題の 早期解決へ



議長団は
仙台地本 大沼代議員
東京地本 武笠代議員
代議員、七十二名・役員全員の出席を確認し大会成立宣言がされました。議長には、仙台地本の大沼代議員、副議長に東京地本の武笠代議員が選出されました。

その後、高橋委員長のあいさつや各来賓の激励のあいさつが、それぞれありました。国労弁護士からは中里弁護士が、裁判の経過・状況など説明がされました。午後からは、経過報告・方針提案があり、経過報告についての質問・意見、その後は一般討論へと移っていきましました。第一日は十七時五十分ごろ終了しその後、財政小委員会が開催されました。



来賓あいさつ
社民党
日本共産党
交運労協
平和フォーラム
建交労鉄道本部
全交運共済
国鉄闘争中央共闘会議
国鉄共闘会議
連帯する会



解決水準を高めていく 中里弁護士あいさつ

二〇〇六年に訴え、七月十一日に第一回公判。三月に第九回、九月に最終弁論し結審する。三〇人の意見陳述をおこなった。事件を風化させない強い陳述だった。十二月に判決予定。裁判の判決から不当労働行為が明確になった。

課題は、賠償金が五百万円にとどまったこと。最大の課題を克服しなければならぬ課題だ。JRに採用された他労組より勤務成績が優秀なことを立証させる。これが立証されると賠償金額が大きくなる。勤務成績については我々では立証は難しい。不当労働行為があったことを追認経営者側は認めない。ここから風穴を開けて賠償金額を上げていくこと。停職処分は認めない。ここから風穴を開けて賠償金額を上げていくこと。停職処分の二十一人の人間については、停職処分について不当労働行為が無かったか追及する。他労組は採用されている事実があることから追及していく。時効は成立せず。

政治の動きに かかわらず 全力を挙げる

弁護団は政治の動きにかかわらず全力を挙げる。裁判における確実な勝利を求めていく。賠償金以外の雇用・年金は裁判では解決できない。基本は政治解決だ。それよりも解決水準を高めていくために全力を挙げる。闘いはフィナーレに入っている。それは有終の美にしていきたいこと。一日も早い解決を裏現していく。確実に可能になる。

書記長集約



JR不採用本題について改めて全体の意思統一を図ること。解決へ前進、今まであらゆる運動をやってきた。6ヶ月の運動については、2・16集会開催、全会派の結集・3・15判決では不当労働行為があったこと・時効が無くなったこと。自民に窓口ができ検討に入ったことは大きな到達点だ。今後の展望については、2人の(高橋委員長・二瓶議長)の運動・具体的な活動を支え、押し上げていくこと。窓口になっている2人が政治的な行動に集中させること。今まで積み上げてきたものを、リセットさせないで、もう一度解決の出口へ取り組んでいく。

社会的問題について 新自由主義・非正規雇用など矛盾が増大している。国民的課題の闘いを我々自身の問題として取り組んでいく。春闘に結合・JR不採用問題と直結して闘っていく。

一括和解以降の職場闘争について コンプライアンス・社会的責任について建設的な提言を出していく。安全総点検・仕事総点検運動を進めていく。和解の精神が示されない職場については是正していく。職場では事故が多発している。原因を追及し提言していく。その運動・取り組みで組織拡大へつなげていく。昨年は40名の拡大、今年は38名が国労加入している。この流れを全体で共有し本流にしていく。

総選挙闘争について 反戦・平和・生活・福祉など国民的課題の要求実現、人間らしく生きていくために、JR不採用問題を勝利へ、全体が総団結して総選挙勝利に向けて奮闘していく。



経過報告について 意見・質問

経過では、五名の代議員から発言がありました。
JR不採用問題の闘いを、拡大行動と結合させながら運動を進展させていく。解決の水準を上げていく。アスベスト問題、今後も交渉を強化し運動を進めていく。遺族年金など改善し和解内容を是正させていく。国労組合員に対しての免罪事件(痴漢行為)について、有罪判決が出ている。この状況と解雇される。

現在、全国の仲間と闘っている。09春闘、全力で戦術面を出し切っているのか。会社へ脅威を与えていないのか。国労はアストを配置し春闘を闘おう。それは、闘争団を含め組合員に勇気を与える。
JR不採用問題、二十三年目に入った。総選挙が実施されるが、どんな政府になっても、新政権へ直ちに行動を起こしていくこと。2・16集会で野党の合意形成が確立された。政治解決に向けて、自治体決議や中央行動、中央集会の行動展開が重要だ。

職場では事故が多発している。国交省からも警告書が出されている。それは、規制緩和が原因だ。労働条件改善に向けて全国統一闘争・安全総点検の強化をしていくこと。
JR不採用問題、中央行動では一体となった闘いになっている。地方からも支援共闘と闘つ決意だ。
一年間で六名の拡大が達成した。世話役活動、呑み会など仲間作りなど展開している。本部の組織拡大経験交流集会を計画してほしい。
整備新幹線の対策会議の設置や並行在来線の闘いを全国の闘いと交流していく。青い森鉄道は、営業キロが25.9キロから、二〇一〇年十二月に新幹線開業になると121.9キロになる。営業距離で一位になる。現在、短年度で三億四千万円の赤字だ。具体的な指導が必要になってくる。八戸、青森間開業に向けて出向者を希望している。要員配置が具体化されていない。全国からの取り組みなど、並行在来線・地方線存続の取り組みに向けて運動を進めていく。

(一般討論などは次号に掲載します)